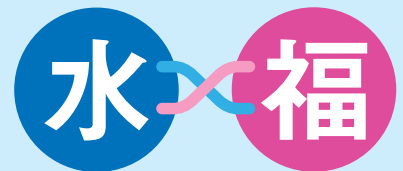


かながわ水産業福祉連携推進事業 事例集 2026



Fisheries industry
×
Welfare business



神奈川県環境農政局農水産部水産課
認定特定非営利活動法人 藤沢市民活動推進機構
特定非営利活動法人 湘南 NPO サポートセンター



「水福連携（すいふく・れんけい）」とは…
「水産業」と「福祉」の「連携」のことです。

現在、水産業では、新規就業者の減少や漁業者の高齢化などにより、全国で担い手不足が進行しています。他方、福祉では、支援を要する方（障がい者等）の雇用環境は厳しく、就労の機会も十分ではありません。こうした「水」・「福」双方の課題を解決するための方策のひとつとして「水福連携」があります。

水福連携とは、福祉の支援を要する方（障がい者等）を水産業（水産加工、漁業、養殖業など）の担い手に位置付けることで、水産業の「担い手不足の解消」と、福祉の「就労・雇用の機会の確保」を図るものです。

また、水福連携の推進は、「障がい者等の社会参加」＝「共生社会の実現」を促し、神奈川県が定める「ともに生きる社会かながわ憲章」の理念の実践にもつながります。

神奈川県では、令和5年度から、NPO 法人2団体と協働し、県内全域を対象にして「水福連携」を推進する取組を始め、水産業者と障がい者、高齢者（若年性認知症を含む。）、生活困窮者（ひきこもり等）のマッチングを支援しています。

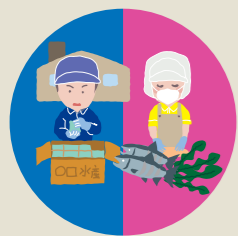
この「事例集」は、これまでの神奈川県の実績の結果、マッチングが成立した事例の詳細をわかりやすくまとめたものです。水産業者や福祉関係者、また水産業と福祉の懸け橋になりたいと考えている方を主な対象としていますので、水福連携を深く知り、具体像をつかむための参考としていただけますと幸いです。

また、本書とは別に「マニュアル・ガイドブック」も作成しています。水福連携に関する基礎知識と進め方についてわかりやすく情報を記載したものとなりますので、本書とあわせて、ぜひそちらもご覧ください。

ともに生きる社会かながわ憲章

- 一 私たちは、あたたかい心をもって、すべての人のいのちを大切にします
- 一 私たちは、誰もがその人らしく暮らすことのできる地域社会を実現します
- 一 私たちは、障がい者の社会への参加を妨げるあらゆる壁、いかなる偏見や差別も排除します
- 一 私たちは、この憲章の実現に向けて、県民総ぐるみで取り組みます

平成 28 年 10 月 14 日
神奈川県



2025年度の成立事例の紹介



水×福 事例#1 トマ鯖カレー・シラスカレーの封入、真空加工品のラベル貼り、箱の組立

「食品ロス^①の解決、地産地消の商品開発を推進しているが、更に福祉事業所の得意分野を活かした仕事を委託することで、会社の手不足解消と地域の社会貢献にも寄与したい」

水

山大商事 株式会社 平塚市堤町 1-2-2

連携の経緯

山大商事は平塚市を拠点として冠婚葬祭や介護事業を行っている平安グループに属する会社で、食品の商品開発から販売まで、食品製造を担っています。

食品ロスの解消や地産地消のための商品開発の一環として、平塚市漁業協同組合等と連携して、市場等に販売できない低・未利用魚と規格外のトマトを活用した新商品「トマ鯖カレー」を開発しましたが、人員不足の課題もあり生産体制などについて今後の対応

を模索していたところ、水福連携の情報を得ました。福祉事業所と連携できれば地元企業として地域に貢献できますし、福祉事業所は施設の内・外両方で就労可能であると知ったので、施設にお願ひできる仕事の整理を行いました。マッチングの場づくりの機会を作り、実際に作業を体験する中で、障がい者にも対応可能な作業の切り出しを行った結果、施設外で商品の封入作業をお願いすることとし、施設外就労に積極的に実績も充分なグランズ平塚に作業を委託し

ました。施設利用者の障がい者の方たちには真面目に作業をしていただき、助かっています。また、外観や品質に問題が発生した場合は、福祉事業所に相談しながら、その都度対策を講じるようにしています。

加えて、外箱の組立作業についても、実績十分な事業所であるクオケアに施設内での作業としてお願いすることにしました。納入の際の外観チェックや積載量など、施設内での作業として委託する上で

の課題も残っていたので、まずは魚の加工品（真空パック商品）のラベル貼りなど可能なところから連携を開始しました。輸送等の課題の解消に向けて話し合いを重ねることで本来の目的であった箱の組立にもつなげることができました。全体の量が偏らないようにバランスを取りながら発注量を決めています。緊急時の対応についても、普段から緊密なコミュニケーションを取ることで、柔軟に対応してもらっています。



福

株式会社 浦川屋 就労継続支援B型事業所 グランズ平塚（施設外）

平塚市明石町9-2

作業の内容

作業は支援員1名、利用者4名の体制で行っています。

外箱を正確に組み立てながら、商品の封入作業を行います。箱の上下や裏表は水産加工会社から指定されているため、間違えないように注意して作業します。次に、箱の耳が外に出ていないかを確認し、自動封緘機にセットして糊付けを施します。最後に、賞味期限の印字擦れがないか、また、外観品質に問題がないかをチェックしながらダンボール箱に1ロット50箱を詰めて完了です。

●連携してみ

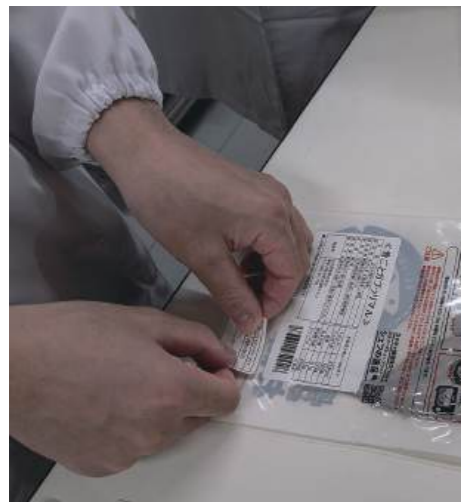
私たちの施設は、障がい者の自立を主な運営理念とした就労継続支援B型事業所です。令和5年度に他の水産会社と水福連携をした実績もあり、施設外就労が可能と判断しました。

利用者によっては箱の組立が苦手な人もいますが、時間をかけて作業の習熟性を見極めるようにしています。また、作業の複雑さを段階に分けて利用者ごとに対応の可否を判断することで今後の作業拡大等に役立てていきたいと考えています。

（注記）令和7年11月30日で契約満了

●連携のポイント

- 希望する仕事を福祉事業所が実際に体験することで、障がい者の特性を確認。
- 当事者双方の要望を出し合って合意点を見出す（コスト・品質基準・作業内容・シフトなど）
- 持続可能な関係構築のため、双方が無理をしない答えを導き出すような働きかけ
- 品質基準・価格は両社が納得するまで話し合っ
- 問題が発生した場合は先送りせず、改善策を見出し即実施する



■真空パックされた干物のラベル貼り



■トマ鯖カレーの箱詰め作業



■自動機による封緘作業

福

ビースマート株式会社 就労継続支援B型事業所 クオケア（施設内）

平塚市明石町21-6

作業の内容

シラスカレー・トマ鯖カレーの封入を行っています。

外箱を指定の数だけ組立てて、箱の下面に貼られている両面テープを剥がし、接着させて商品を封入（その際は、裏表もチェック）します。次に、箱の上面の両面テープを剥がして接着し、外観品質に問題（キズ等）がないかチェックして、ダンボール箱に1ロット50箱ずつ詰めて保管し、納品します。なお、トマ鯖カレーの封入作業の場合は、箱の上下面に両面テープを貼る工程も行っています。その他、真空加工品のラベル貼り、贈答用箱の組立てなども手掛けています。

●連携してみ

私たちの施設は、利用者の関心や興味に寄り添い、軽作業などに安心して取り組める工夫をしているB型事業所です。

委託元の水産加工会社とは、水産業の手不足の解消と、障がい者の社会参画・処遇改善の機会創出という認識が一致しているので、とても仕事がやりやすいです。始めた当初はどのくらいできるか手探り状態でしたが、今では福祉事業所の利用価値を委託元にも感じていただいているのではないかと思います。

●連携のポイント

- お互いの事情を尊重しつつ忌憚のない意見交換をすることは、持続可能な関係性を継続する上で大事
- 初めから100%を要求しない
- 普段から緊密なコミュニケーションにより信頼関係を確立
- 水産加工会社の事業所と福祉事業所が近距離にあり、即時対応が可能
- スポット契約でも対応が可能



■釜揚げシラスカレーはレトルト製品を封入し両面テープで上下封緘する



■真空パックされた魚加工品用のラベル貼り



■納品前の真空加工品（味海苔（50箱入り））検品済みラベルも貼られている状態

水×福 事例#2 未利用魚(カスザメ)を利用したペット用ドライフードの乾燥、袋入れ

「未利用魚を使用したペット用ドライフードの製造を通し福祉事業所と連携する」

水

カネサ網 重政商店 茅ヶ崎市共恵 1丁目 15-33

連携の経緯

カネサ網 重政商店は茅ヶ崎市を拠点とする網元で、観光地引網・水産加工品販売なども行っています。

湘南ロケットとは以前から野菜を用いたペットフードの袋詰め作業で協力関係にありましたが、県が主催する水福連携に関する一般向け講座に湘南ロケットが参加して水福連携の進展について知ったことをきっかけに、我々の間でも新たな連携に向けた機運が高まってきました。水産分野での新たな連携を模索するために協議した結果、定置網で混獲されるものの市場価値が低い「カスザメ」に着目し、フードロス削減の観点から野菜と同様にペット用ドライフードとして加工（乾燥）、袋詰め作業を行うことになりました。

連携にあたっては、先行の水福連携事例を参考にしながら、利用者の適性把握、作業安全、品質管理、機器調達などについて協議を重ねました。その後、湘南ロケットの利用者に現場で作業体験をしてもらったところ、包丁の扱いに長けた利用者があることがわかりました。その結果、加工や袋詰めの前工程である魚のカット作業も行えるのではないかと見込みが立ち、湘南ロケットが担える作業範囲が広がりました。また、加工作業に必要な乾燥機については、重政商店側が無償貸与するなど、湘南ロケットが初期投資の負担を負わないように配慮することで持続可能な連携が実現できました。



福

地域密着型通所介護 湘南ロケット (施設内)

茅ヶ崎市東海岸北4-1-8

作業の内容

重政商店から無償貸与された乾燥機などの機器を施設内に設置し、令和7年6

月より施設内就労として作業を開始しており、現在は以下の役割分担で作業を行っています。

・カット工程: 専任の利用者1名が、冷凍されたカスザメの中骨を除去し、包丁を使って均等な大きさにカットします。

・乾燥・仕上げ: 他の利用者がカット済みの材料を乾燥機にかけ、計量、乾燥剤の封入、袋詰め、封緘までを丁寧に行います。

●連携してみても

私たちの施設は、玄関に駄菓子売り場を設けて地域の子供たちとの交流を図るなど、利用者の生きがいや意欲を育む支援を行っている、地域密着型の通所介護施設です。

今回の連携においては、刃物を扱える利用者の能力に着目していただき作業範囲の拡大につなげることができたことは大きな収穫です。



■ カスザメ



■ カスザメを包丁でカット



■ 乾燥機を使って、70°Cで15時間乾燥



■ 袋にラベルを貼り完成

●連携のポイント

■連携の課題や懸念事項に対し他の事例を参考に解決の手がかりを見出す

■支援員研修、現場体験を通じて双方が利用者の適性を確認する

■初期費用が必要な備品等は当事者に負担がかからない調達方法を検討

水×福 事例#3 イカ墨煮卵の梱包、かません(かまぼこ煎餅)の箱詰め、なま昆布の計量、袋詰め

「持続可能な連携に支えられた委託事業の拡大」

水

株式会社 鮑屋 小田原市早川 1-4-10

連携の経緯

鮑屋は創業430余年の水産卸売会社で、自社工場の水産加工品の開発から販売も行っています。

以前より他の分野で協力関係にあった作業所ゆくと、令和5年度に、「小田原あんこうカレー」の袋詰め作業で最初の水福連携を始めました。その後、ゆうの箱組立てや包装の技術を活かし、令和6年度にはイカ墨煮卵の梱包、令和7年度にはグチのすり身を使った「かません」の箱詰め、「なま昆布」の梱包と、水福連携の品目を着実に拡大し、複数の案件が並行して継続されています。

連携の実績を重ねて利用者の作業特性や生産効率に対する相互理解が深まることで、新規連携案件の導入が円滑にできるだけでなく、急な受注変動に対しても両者が現場で相談し、柔軟に対応できるようになっています。

また、一般的には作業所側の負担となる物流コストを、鮑屋側が自社の混載便を活用することで抑制、一方で、ゆうは独自の治具製作などによって品質と効率を高めるなど、お互いを補完しあう信頼関係が持続可能な連携を支えています。



福

NPO法人 障害者地域作業所 地域活動支援センター ゆう (施設内)

小田原市小台 340-2

作業の内容

令和7年5月に始まったかませんは袋入りと箱入りの二種類の形態があります。袋入りの方は、個包装された商品を5枚数えてポリ袋に詰めて封入し、成分表示のシールを貼るという作業、箱入りの方は、箱を組立ててシールを貼り、商品12枚分を数えて箱詰めするという作業を分担して行います。

加えて、令和7年7月からはなま昆布の梱包での連携が始まり、シール貼り、昆布の計量、袋詰め、封止、箱詰めまでのすべての作業を担当しています。

●連携してみても

私たちの施設は、障がい者の地域生活の支援に関する事業を通じて福祉の増進に寄与することを目的とする通所型の作業所です。肢体や聴覚に障がいをもつ利用者が主で、複雑な箱の組立てや、計量、計数など難度の高い作業にも対応できます。

色々な案件で鮑屋との連携を広げ実績を積み重ねてきたことで、他の水産会社とも箱組立作業での取引を始めることができました。

●連携のポイント

■実績を積み重ねることで、お互いの理解が深まる

■お互いが課題を補完し合うことで持続可能な関係を築く

■案件が複数化することで仕事量が安定に確保できる



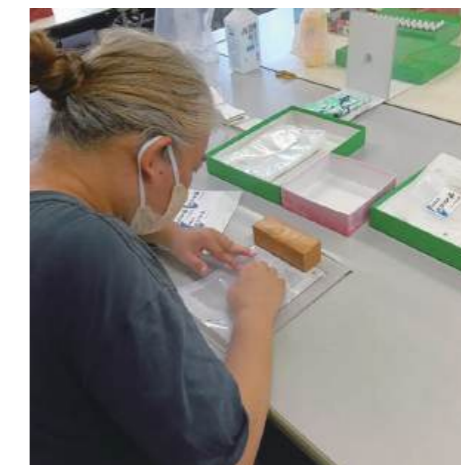
■ イカ墨を使った煮卵を指定のかごに詰める



■ なま昆布を計量し袋詰め



■ グチのすり身を練りこんだ煎餅(かません)の箱詰め(個数は2種類)乾燥



■ なま昆布袋詰め

水×福 事例#4 吸水シートのカット、袋入れ

「仕事の一部を外転することにより生産性を向上することと同時に障がい者の社会参画にも寄与したい」

水

株式会社 貝登志 小田原市早川 1-5-3

連携の経緯

貝登志は平成17年に設立された、主に水産物卸と小田原市場仲買業を行っている会社です。

今回、小田原市の紹介で水福連携事業があることを知り、慢性的な人手不足の解消のため外部に委託できる作業の検討を始めました。

当初の想定では、加工場の作業が終了した後の清掃作業や袋のシール貼りなどを考えていましたが、福祉事業所に現場体験（トライアル）をしてもらう中で、水産物をパッケージする際に入れるロール

状の吸水シートをハサミでカットして専用のプラスチック袋に入れる工程に絞ってお願いすることにしました。この作業は繁忙期には人手が足りず、困っていましたが、福祉事業所の作業の仕上がりは丁寧で、もっと前からお願いしていれば良かったと思っています。

発注は在庫の状況を見ながら行っています。また、資材及び完成品の搬入・納入に関しては、調整の結果、貝登志側が業務の合間に対応することになりました。



水×福 事例#5 キッチンカー出展用アジフライのラベル貼り

「水福連携を通して会社の負担軽減と地域の活性化にも寄与したい」

水

湘南魚類 株式会社 小田原市早川 1-5-3

連携の経緯

湘南魚類は「小田原漁港を日本一の女子漁港に」との想いのもと、女性を中心としてキッチンカー販売等を行う「水産女子プロジェクト」のために貝登志から独立した会社であり、キッチンカー出店時にアジフライ等の販売を行っています。

アジフライを入れる袋にはラベル貼りを行いますが、本来の仕事

が終わってから夜間に作業をしなければならず、時間に追われていました。そうした中、同業他社から水福連携の取組を聞き、お願いすることにしました。

イベント開催に合わせて作業をお願いしていますが、急な依頼であっても快く対応していただき大変助かっています。



福

社会福祉法人 小田原支援センター 第2 小田原アシスト（施設内）

小田原市東町4丁目4-5

作業の内容

貝登志との連携では、水産物をパッケージする際に入れるロール状の吸水シートをハサミでカットして専用のプラスチック袋に入れる作業を行っています。

また、湘南魚類との連携では、キッチンカーで販売するアジフライ用の紙製の袋に指定のラベルを貼る作業を行っています。

連携してみて

小田原支援センターは地域に居住する障がいを持った方が、作業活動等を通して日々を充実して生活できるようサポートしている就労継続支援B型事業所です。

水福連携についても積極的に取り組んでおり、令和6年度にも別の水産業者と施設外就労で連携をしていました。その経験も踏まえ、貝登志、湘南魚類との施設内就労での連携を開始しました。

材料及び製品の物流については、お互いの拠点が近いこともあり、水産業者が「ついで」に寄る形で対応してもらっています。また、納期については、水産業者側が在庫状況を確認しながら発注するため、納期に追われることもなく、余裕があって助かっています。不定期の作業にはなりますが、委託元からは仕上がりが丁寧であるとの評価をいただいております。利用者にとっても良い経験になるので、吸水シートのカット、ラベル貼り以外にも作業の幅を広げていきたいと考えています。



■ カットする前の吸水シート



■ カットされた吸水シートを指定のプラスチック袋に入れる



■ ハサミを使い吸水シートを指定の大きさにカットする

連携のポイント

- 水産業者の困りごとや課題をよく聞き、対応可能な事業所との連携を行う
- スポット契約でも対応可能
- 福祉事業所の仕事ぶりに対する信頼性
- 水産業者と福祉事業所間の物理的な距離が近い



■ アジフライ完成品



■ 「水産女子プロジェクト」の移動キッチンカー



■ キッチンカーで販売するアジフライの袋にシールを貼付する

水×福 事例#6 さつま揚げ、ちくわの包装、セイロ詰め

「福祉事業所に活躍の場を提供し、工賃向上に寄与するとともに、人手不足の解消と生産性向上につなげる」

水 有限会社 伊勢兼商店 小田原市浜町 3-15-5

連携の経緯

伊勢兼商店は創業1830年、小田原かまぼこの伝統を継承しつつ柔軟な発想を取り入れ新商品開発（伝統プラスワン）にも積極的に挑戦している会社です。

小田原蒲鉾協同組合の会合で県から水福連携についての説明を聞いたことをきっかけに、福祉事業所に活躍の場を提供したいと考え、何かお願いできる作業はあるか、具体的な検討を始めました。生産体制は午前中にちくわ・さつま揚げ等の製造、午後から商品の包装（シーリング）・梱包作業、及び得意先に出荷するための商品梱包などを行っています。そこで、まずは利用者さんの現場体験などを実施し、検討している作業が委託可能かどうかを見極める機会を設けていただきました。その結果、コスモス学園に包装（シーリ

ング）作業と商品をセイロに詰める作業を、会社の定休日を除く平日4日間の午後からお願いすることにしました。利用者さんの習熟度も日々向上し、作業時間も大幅に短縮してきており非常に助かっています。将来的には作業範囲の拡大も視野に入れていきたいと考えています。利用者さんは貴重な戦力であり、従業員の良い刺激にもなっています。また、会社の拡販営業活動など、対応が手薄になりがちだった本来の業務にも時間をかけられるようになっているのは大きなメリットであると感じています。



水×福 事例#7 つみれ用の箱組立、商品箱詰め

「福祉事業所との取引を拡大することにより社内の生産性を向上させたい」

水 有限会社 山上蒲鉾店 小田原市浜町 3-15-2

連携の経緯

山上蒲鉾店は創業1878年、小田原蒲鉾の老舗で、伝統的な製造技法にこだわって、魚の仕入れから製造に至るまでの全工程を社内で行っています。また、全国蒲鉾品評会で農林水産大臣賞受賞、また水産練り生産製造部門において全国で3人目かつ小田原初の厚生労働省「ものづくりマイスター」にも認定されている会社です。

以前から障がい者を雇用している実績がありましたが、水福連携に取り組んでいる同業者から改めて水福連携を勧められ、軽作業を福祉事業所に委託することにより会社の生産性向上、さらに障がい者の働く場の拡大を目指すことにしました。作業内容を検討した結果、生産量が比較的多まっている「つみれ」の箱詰めはできないかと考えました。

連携先の候補としては県側からコスモス学園を紹介していただき、施設利用者の方に現場で作業体験をしてもらう際には、品質管理等の話をしながら進めていきました。商品は1箱に6袋入れる必要がありますが、コスモス学園の提案を取り入れて、梱包前に重量を測ることで数の誤りがないように管理しています。また、作業をする専用台を設け、作業環境の整備も行っています。作業は当初よりスピードが上がってきており、また、品質も依頼通りに仕上がっているため、従業員の負担軽減にもなっています。今後はつみれの箱詰め作業以外にも拡大できるよう、調整していきたいです。



福

社会福祉法人 足柄緑の会 コスモス学園中沼ジョブセンター（施設外）

南足柄市 中沼832

作業の内容

伊勢兼商店ではさつま揚げやちくわの包装（シーリング）を行っています。袋に入っているさつま揚げやちくわをシーリング機で封入し（その際、テープの剥がれがないかを確認します）、専用のセイロに21袋を1セットにして並べる作業です（最後の袋は表側が見えるように並べます）。その他、時間のある時には納品用の段ボール組立も行っています。

一方、山上蒲鉾店での作業はつみれの箱の組立てと封入です。まず、つみれ専用の箱を必要な数だけ組み立て、下面にガムテープを貼ります。次に真空パックされているつみれの個数と外観をチェックし、不良と判断した商品は専用の箱に保管します。良品は箱に6袋ずつ入れ、製造年月日のラベルを貼り、箱の上面にガムテープ止めし、専用の台車に積んで完成となります。なお、6袋が箱に入っているかどうかは重さを測り、確認しています。

作業日程については、水曜日を除く平日午前中は山上蒲鉾店で作業し、その後、午後からは伊勢兼商店に移動して作業しています。基本的な人員体制は支援員1名・利用者4名です。

●連携してみても

私たちの施設は、重い障がいを持つ方でも安心して過ごせる場所を提供し、自立と社会参加を促すとともに、作業支援や仕事の訓練などを通じて一般就労に結び付けられるよう支援している福祉事業所です。

今回の水福連携を通じ、施設外就労を広く進めていくことにより、社会一般に考えられている障がい者に対するイメージを変えたいと思っています。実際、生産性も向上しており水福連携の当事者双方にメリットがあると感じています。

連携のポイント

- 双方からの提案を取り入れ、作業のしやすい環境づくりを実践
- 事前に意見を交わし、課題を先送りしない
- 利用者の現場体験を実施し、特性及び作業内容を把握（水産会社・事業所双方が確認）
- 生産量は双方無理のない範囲で設定
- 契約価格（出来高・時間給）は、双方にメリットがあるよう調整



■ 6個入りさつま揚げを一袋ずつシーリングする



■ シーリングしたものの中身を確認しながらセイロに詰める



■ 完成品をセイロに21袋



■ 作業前の状態



■ つみれの箱組立、品質確認をしながら製品を6袋箱詰め



■ 員数確認のため計量し賞味期限ラベルを貼付



■ 完成品

水×福 事例#8 ひじきのごみ取り、海苔缶ラベル貼り、海ぶどうの水槽清掃

「手間のかかる生産工程を外部に委託し、創出された時間を他の漁業活動や生産・販売業務に充てる」

水

丸良水産 横須賀市走水 1-4 地先

連携の経緯

丸良水産は、三代続く漁師の家系であり、先進的な取組にも積極的に取り組んでいます。

本事例は、神奈川県の水福連携推進事業をきっかけにマッチングしたのですが、横須賀市の農水産業振興課を通じて事業が案内されました。

水福連携を検討する上で注目したのは、「ひじきの製品化」における負担の大きさでした。ひじきは他の海産物と比較して生産工程が多く、特にひじきに付着したり紛れ込んでいる微細な異物（ごみ）を取り除く作業は膨大な手間と長時間の集中力を必要とします。この作業に多くの時間が割かれることで他の基幹業務を圧迫している

という課題が、水福連携を具体的に検討する強いきっかけとなりました。

連携の構築にあたっては、横須賀市の協力のもと、作業適性のある福祉事業所を募り、まず福祉事業所「つばさ」とマッチングに向けた検討を行いました。丸良水産にとっても、つばさにとっても水福連携は初の試みであったため、まずは現場体験を通じて作業環境を確認し、少量の作業から開始する試験運用（トライアル）を行いました。そして、作業現場での細かな調整を重ねて作業マニュアルを整えていくことで、徐々に作業精度を上げていき、当事者双方の不安を解消していきました。数回のトライアルを経た結果、

丸良水産にとっては「手間のかかる工程を外部委託することで、創出された時間を他の漁業活動や生産・販売業務に充てられる」という生産性の向上、福祉事業所にとっては「地域産業に関わるやりがいの創出」という、双方にとって明確なメリットが確認され、正式な業務委託契約の締結に至りました。

この連携モデルはその後、さらなる広がりを見せており、つばさの近隣にある別の事業所「田浦障害者活動センター」ともトライアルを行い、「ひじきのごみ取り」の契約が成立しました。さらに、ひじきのごみ取り作業で築かれた強固な信頼関係を背景に、つばさ、田浦障害者活動センターとは海苔缶のラベル貼りでも連携が成

立したほか、新たな事業所「銀河大津」でも海苔缶のラベル貼りの連携が成立することになりました。さらに、田浦障害者活動センターについては、海ぶどうの養殖に使う水槽清掃でも契約が成立し、業務の幅が多角化しています。



NPO法人横須賀つばさの会 就労継続支援B型事業所 つばさ
福 横須賀市三春町2-4 EMIAS203号 (施設内)

作業の内容

ひじきの選別（ごみ・砂取り）および海苔缶のラベル貼り作業を行っています。

ひじきのごみを取る際は、まず、ひじきに付着したり紛れ込んでいる砂をしっかりと落とします。その後、黒い紙の上にひじきを置き、浮かび上がって見えてくる白いごみなどをピンセットで丁寧に一つずつ落としていきます。原材料のひじきの引き取りと完成品のひじきの納品は事業所が行います。

海苔缶のラベル貼りについては、ラベルの紙にノリを付けすぎないように注意する必要があります。また、缶にラベルを貼るときにはしっかりと力を入れて作業します。

●連携してみても

つばさは、精神に障がいのある方一人ひとりの目標に寄り添いながら活動している事業所です。

ひじきのごみ取りは、非常に根気のいる細かい作業ですが、丁寧に作業して品質を確保しています。納品時には、丸良水産による品質チェックが行われるとともに、次回の作業量についても直接協議が行われます。このように密なコミュニケーションを通じて、信頼関係を積み重ね、より良い製品を納品できるよう、継続的な改善に取り組んでいます。



■ 乾燥ひじきのごみ取り選別作業
利用者2名ずつで作業



(社福)横須賀基督教社会館 就労継続支援B型事業所 田浦障害者活動センター
福 横須賀市田浦2-80-1 (施設内・外)

作業の内容

ひじきの選別（ごみ・砂取り）や海苔缶のラベル貼りなどの施設内作業のほか、夏季限定の施設外作業として海ぶどうの養殖水槽清掃を行っています。

海ぶどうの養殖水槽清掃については、水を張った大型の養殖水槽の汚れをブラシとスポンジで落としていきます。この作業は立ったまま行うため一定の体力を要することから、3名以上のチーム体制で協力して行います。また、夏場の作業であるため、熱中症対策として作業時間を1時間程度に制限するなど、安全面に配慮して実施しています。

●連携してみても

田浦障害者活動センターは、利用者同士のつながりを大切にし、誰もが希望を持って自立と連帯の中で暮らせるコミュニティ形成を目指す事業所です。

受託している作業は慣れるまでは負担が大きいです。メンバー間で話し合い、楽しみながら取り組める環境づくりに努めています。



■ 海ぶどうの水槽をブラシとスポンジで丁寧に清掃



エフィワークス株式会社 就労継続支援B型事業所 銀河大津 (施設内)
福 横須賀市大津町1-16-6 中央商工ビル302

作業の内容

海苔缶のラベル貼りを行っています。この作業は、上質なラベル紙を一定の力加減で丁寧に巻きつける作業です。細かい手仕事得意な利用者が主に担当していますが、在宅や施設内での作業が可能のため、外出が困難な方にとっても貴重な就労機会となっています。

●連携してみても

銀河大津は、利用者の皆様が「一人一人が輝く」ことを目指し、多角的なサポートを展開する事業所です。

丁寧な仕事ぶりは取引先からも高く評価されており、丸良水産からは「仕上げが非常に綺麗で助かっている」との高い評価を得ています。単なる居場所の提供に留まらず、社会から必要とされる実感（貢献感）を醸成することで、一人一人が自信を持って輝ける環境づくりを推進しています。



■ 海苔缶を押さえ、糊をラベルに塗る作業、これが案外難しい

連携のポイント

■ 事前に現場でのトライアルを重ねて作業手順の精度を上げ、安定した出来栄を実現

■ 利用者個々のスキルレベルを活かした作業分担

■ 利用者が品質に対する高い評価と感謝の声に直接触れることで、やりがいと自信を実感でき、さらなる作業の品質向上につながる

■ 外出が難しい方でも社会との接点を持ち、役割を持って施設内で働ける環境を整える



■ 缶に蓋をつけて完成させる。箱に入れて納品

水×福 事例#9 会場のゴミ箱管理、環境整備、来場者数カウント

「福祉の力を地域の漁港の活性化の取組につなげていくとともに、水福連携の意義を広く知ってもらおう。」

水 江の島フィッシャーメンズマルシェ実行委員会 藤沢市片瀬海岸2-20-25

連携の経緯

江の島フィッシャーメンズマルシェは、江の島片瀬漁業協同組合が主催しており、当日朝に定置網で水揚げされた魚の販売や、魚をメニューに入れたキッチンカーなど、漁業の魅力を楽しめるイベントです。マルシェの実行委員会は、漁港の活性化や地域連携、および未利用魚を活用した地産地消フードの提供を通じ、海の素晴らしさと漁業の魅力を広く発信することを目的に活動しています。

本事例は、県の水福連携推進事業について、県が水産関係団体（神奈川県しらす船曳網漁業連絡協議会）に説明を行った際、「マ

ルシェでも連携の可能性があるのではないか」とのアドバイスを得て、実行委員会を紹介されたことがきっかけで検討が始まりました。

マルシェ運営の人手は不足していたため、それを福祉事業所においていただくことで水産業と福祉の双方が支え合う形になるならば有意義な取組になるという判断のもと、藤沢市の障がい福祉課や市内の福祉事業所の連絡会の協力を得て、連携先の福祉事業所を探し、マッチング成立に至りました。



福 合同会社K-INDEVIA 就労継続支援B型事業所K's Root 藤沢市長後668-1サザン長後ビル1F (施設外)
ノンフラット合同会社 就労継続支援B型事業所リハワーク藤沢 藤沢市亀井野3263-7 ザ・ケブ亀井野A棟101

作業の内容

会場のゴミ箱管理、環境整備、来場者数のカウント調査を行っています。

ゴミ箱管理、環境整備においては、瓶・缶、ペットボトル、燃えるごみの3分別を徹底し、状況に応じて袋の交換や清掃を適宜実施することで、清潔で快適な会場環境を維持しています。

また、会場内には「水福（水産業×福祉）」の特設ブースを出店し、各福祉事業所で製作・加工された商品の展示販売も行っています。

●連携してみよう

K's Root は、多くの人々の社会的自立と個人の可能性を育むことができるような場所を提供している事業所です。

また、リハワーク藤沢は、医療専門職を中心に、木の香り漂う落ち着いた空間で利用者1人1人に合わせた支援を提供している事業所です。

本事業の取組は、イベント運営の円滑化を目的として始まりましたが、障がい者がイベントの現場で運営業務に携わる姿や特設ブースでの展示販売を通じて、マルシェの来場者に「水福連携」という活動そのものを知っていただく貴重な機会にもなっています。



■ 会場に設置されているゴミ箱
瓶・缶、ペットボトル、燃えるごみ

連携のポイント

■ 組織の枠を超え地域のネットワークを繋ぎ合わせることで、円滑なマッチングを実現

■ 来場者カウントや徹底したゴミ分別・清掃といった、表からは見えないが運営に欠かせない仕事を連携につなげた

■ 作業の受託だけでなく、特設ブースでの製品販売の機会を設けることで、障がい者の働く姿や成果物、そして自立支援のあり方を見てもらう機会を創出



■ ゴミが溜まったら、ビニール袋を縛って、新しいゴミ袋にする

水×福 事例#10 イベントチラシの数量計算、準備作業

「海の価値や魅力を発信し所得機会の増大等を図る海業の取組に福祉の力を活かす」

水 江の島フィッシャーメンズマルシェ実行委員会 藤沢市片瀬海岸2-20-25
NPO法人江の島・フィッシャーメンズ・プロジェクト 藤沢市江の島1-3-12

連携の経緯

NPO 法人江の島・フィッシャーメンズ・プロジェクトは、漁村としての江の島を盛り立て、磯焼け・海底清掃など、江の島の海底で起きている環境問題に取り組むために設立された団体であり、環境保全活動を行うとともに、環境問題について「楽しく学ぶ」をテーマとした体験学習や釣り船教室などのイベントを開催しています。

さらに、漁村の人々が、海や漁村に関する地域資源の価値や魅

力を活用して所得機会の増大等を図る「海業」という新しい取組も積極的に推進しています。

本事例は、江の島フィッシャーメンズマルシェでの連携をきっかけにして、他にも江の島で水福連携ができないかが検討された結果、藤沢市の農業水産課の協力のもと成立したマッチング事例です。



福 一般社団法人HYGGE 就労継続支援B型事業所 湘南塩梅 藤沢市本町3-8-16 長谷川マンション1F (施設内・外)
社会福祉法人県央福祉会 就労継続支援B型・生活介護事業所 かたくりの里 藤沢市湘南台5-1-2

作業の内容

江の島・フィッシャーメンズ・プロジェクトが実施する海業イベントのチラシ折り作業、パンフレットの折り畳み・結束作業、また、江の島フィッシャーメンズマルシェ実行委員会が発行するマルシェのチラシの計数・折込み作業を行っています。

●連携してみよう

湘南塩梅は、名称の由来である「いい塩梅（ちょうどよい加減）」を理念に掲げています。多様な生活様式や働き方が広がる中で、利用者が自分自身にとって最適なライフスタイルを見つけられる場を提供する事業所です。

また、かたくりの里は、精神障がいのある利用者の日中の活動拠点として、製菓部門でのクッキーをはじめとする焼き菓子の製造に取り組んでいます。

チラシは多くの人の目に留まるものであるため、折込み作業を行う施設利用者にとって大きなやりがいとなっています。



■ チラシの束を丁寧に数えて、交互に重ねる

連携のポイント

■ 無理なく、心地よい距離感で社会とつながる作業

■ 利用者個々のペースを尊重し「利用者にとって無理なく丁度良い」レベルの仕事から連携を始める

■ 利用者の社会参加と自信を育むことを双方が意識し、イベント等のチラシ配布に関する作業を通じて利用者が地域社会に関わることができる機会を創出



■ 1枚ずつ丁寧にチラシを折る、折ったチラシを束ねる

水×福 事例#11 葉山ウニのごみ取り作業

「手間のかかるウニの細かいごみ取り作業を、急な発注にも対応できるよう柔軟に、かつ丁寧に仕上げる」

事例概要一覧

水 くぼたマリンファーム 横須賀市佐原 1-20-28

連携の経緯

くぼたマリンファームは、「葉山ウニ」の養殖事業や販売を行っている会社であり、令和6年3月に横須賀で設立されました。同社の代表は令和5年3月から葉山・真名瀬漁港の協力を得て、湘南漁業協同組合葉山支所をはじめとする関係各所の支援の下、ウニの養殖研究を進めており、その成果が「葉山ウニ」です。

葉山地域ではすでに、ひじきのごみ取り作業での水福連携が成立しており、地域の漁業者と福祉事業所との間で信頼関係が構築され

ています。本事例もこうした信頼関係を基礎として、葉山の漁業関係者から県側に「葉山ウニでも何か水福連携の可能性はあるのではないか」との提案があったことをきっかけとして検討が始まりました。

すでに水福連携で実績がある福祉事業所（STYLE）に連携を打診するとともに、新規の事業所（ハンガアウト）にも声を掛け、現場体験、トライアル期間を経て正式な作業受託体制を構築しました。

SY'Style株式会社 就労継続支援B型事業所STYLE
福 三浦郡葉山町堀内626-6 (施設外)

株式会社ハンガアウト 就労継続支援B型事業所ハンガアウト
福 葉山町長柄1599-1 (施設外)

作業の内容

葉山ウニの精製のため、ウニの身からごみなどの不要物を取り除く作業を行っています。

当初はウニの身を掌の上に載せて作業を行っていましたが、これでは早く作業をしないとウニの身が温まって商品にならなくなってしまったため、ウニの身をプレートに置き、キッチンツールを用いて除去作業を行うよう工夫し、丁寧に作業をしています。

ごみを取った後のウニの身は、塩水に漬け、鮮度保持処理を施し、水産業者による品質チェックを経て、納品されます。

葉山ウニは飲食店のオーナーが直接買い付けに来ることも多く、その場合は注文に応じて急いで対応しなければならないため、単なる加工業務に留まらず、状況に応じた柔軟な対応も求められます。

●連携してみても

STYLEは、個人のペースや伸びしろに合わせて無理なく楽しく就労スキルを習得できることを大切に支援する事業所です。

また、ハンガアウトは利用者に対して仕事を遊び心いっぱいを楽しむ仲間として接する事業所です。

葉山ウニのように地域に根差した水産物に携われることは施設利用者にとっても喜びとなっています。また、ごみ取りは細かい作業なので、施設利用者のスキルアップにつながるという意味でも施設にとって有意義な取組です。



■ キッチンツールを使うことで、ごみ取り・選別作業の効率化を図る

連携のポイント

■過去の連携実績を通じて、漁業関係者との信頼関係を事前に構築していたことが、スムーズな連携の展開を可能にした

■現場体験やトライアルを丁寧に、時間をかけて行うことで、福祉事業所側が無理なく作業を習得し、持続可能な連携体制を整えることができた

■「個別のペースを重視する支援」や「主体的な協働」など、異なる強みを持つ複数の事業所と連携することで、多様な作業ニーズに対応できる柔軟な体制が構築できた



■ 細かく根気のいる作業に対し、一つ一つ丁寧に取り組む

事例番号	地域	作業内容	水産業者	水産業者分類	福祉事業所等	福祉事業所等分類	作業場所(施設内・外)
#1	平塚市	トマ鯖カレーの封入等	山大商事株式会社	水産加工	株式会社浦川屋 グラズ平塚	就労継続支援 B 型事業所	外
					ピーススマート株式会社 クオケア	就労継続支援 B 型事業所	内
#2	茅ヶ崎市	ペット用ドライフードの乾燥等	カネサ網 重政商店	水産加工	地域密着型通所介護 湘南口ケツト	地域密着型通所介護	内
#3	小田原市	イカ墨煮卵の梱包等	株式会社鮑屋	水産加工	NPO 法人障がい者地域作業所 ゆう	地域活動支援センター	内
#4	小田原市	吸水シートのカット等	株式会社貝登志	水産加工	社会福祉法人小田原支援センター 第2小田原アシスト	就労継続支援 B 型事業所	内
#5	小田原市	アジフライのラベル貼り	湘南魚類株式会社				
#6	小田原市	さつま揚げの包装等	有限会社伊勢兼商店	水産加工	社会福祉法人足柄緑の会 コスモス学園 中沼ジョブセンター	就労継続支援 B 型事業所	外
#7	小田原市	つみれ用の箱組立等	有限会社山上蒲鉾店	水産加工			
#8	横須賀市	ひじきのごみ取り 海苔缶ラベル貼り	丸良水産	漁業者	NPO 法人横須賀つばさの会 つばさ	就労継続支援 B 型事業所	内
		海苔缶ラベル貼り			社会福祉法人横須賀基督教社会館 田浦障害者活動センター	就労継続支援 B 型事業所	
		海ぶどうの水槽清掃			エフィラワークス株式会社 銀河大津	就労継続支援 B 型事業所	内
#9	藤沢市	会場のゴミ箱の管理等	江の島フィッシャーメンズ マルシェ実行委員会	イベント主催者	合同会社 K-INDEVIA K's Root	就労継続支援 B 型事業所	外
					ノンフラット合同会社 リハワーク藤沢	就労継続支援 B 型事業所	
#10	藤沢市	イベントのチラシ折り作業	江の島フィッシャーメンズ マルシェ実行委員会	イベント主催者	一般社団法人 HYGGE 湘南塩梅	就労継続支援 B 型事業所	内・外
			NPO 法人江の島・フィッシャーメンズ・プロジェクト		社会福祉法人県央福祉会 かたくりの里	就労継続支援 B 型事業所 生活介護事業所	
#11	葉山町	葉山ウニのごみ取り作業	くぼたマリンファーム	水産加工	SY'Style 株式会社 STYLE	就労継続支援 B 型事業所	外
					株式会社ハンガアウト ハンガアウト	就労継続支援 B 型事業所	



神奈川県環境農政局農水産部水産課

認定特定非営利活動法人 藤沢市民活動推進機構

特定非営利活動法人 湘南 NPO サポートセンター